

## 防災の日に向けた家庭の防災に関する実態調査

# 中高生の親 災害時の連絡 メールやLINEで

## 災害時対応「家族で話した」 中高生は9割以上

株式会社栄光(本社:東京都千代田区 代表取締役社長:山本博之)が運営する進学塾・栄光ゼミナールは、2018年7月4日(水)～7月18日(水)に、防災の日に向けた家庭の防災に関する実態調査を実施し、小学2年生～高校3年生の子どもを持つ保護者696人の有効回答が得られました。

- 発生を想定している災害 **地震 99.4%**
- 子どもと災害時対応を話している 小学生保護者 **85.9%**、中高生保護者 **91.3%**
- 災害時対応話すきっかけ 「**災害の報道**」約7割、「**塾・習い事開始**」「**進学**」も
- 災害時【親⇒子ども】の連絡 小学生:**携帯電話** 中高生:**メール・LINE**
- 災害時【子ども⇒親】の連絡 小学生、中高生とも「**保護者の携帯電話**」**8割超**

栄光ゼミナール調べ

### <調査概要>

調査対象:小学2年生～高校3年生の子どもを持つ栄光モニター会員

(栄光ゼミナール・大学受験ナビオ・栄光の個別ビザビに通塾する保護者)

調査方法:インターネット調査

調査期間:2018年7月4日(水)～7月18日(水)

回答者数:696名

小学2年生:9名(1.3%) 小学3年生:28名(4.0%) 小学4年生:60名(8.6%) 小学5年生:106名(15.2%)

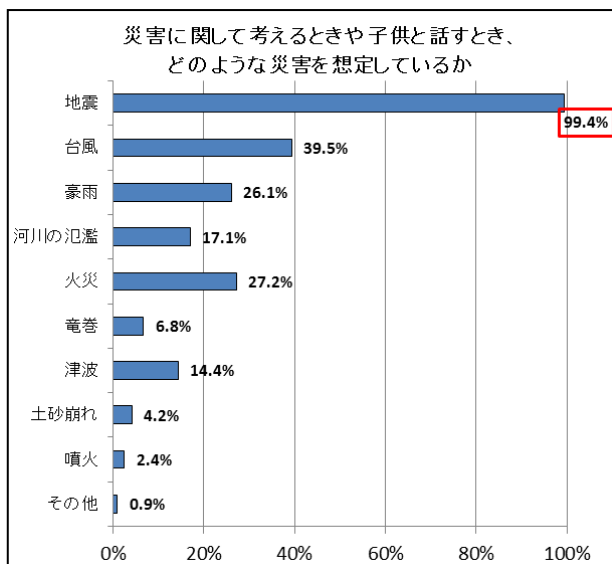
小学6年生:138名(19.8%) 中学1年生:62名(8.9%) 中学2年生:88名(12.6%) 中学3年生:114名(16.4%)

高校1年生:40名(5.7%) 高校2年生:29名(4.2%) 高校3年生:22名(3.2%)

小学生:341名(49.0%) 中高生:355名(51.0%)

### 災害に関して考えるときや子どもと話すと、どのような災害を想定していますか。

(n=696、総回答数 1656、複数回答方式(あてはまるものすべて))

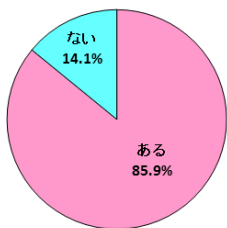


災害に関して考えるときや子どもと話すと、どのような災害を想定しているかを聞いたところ、小中高生の保護者の**99.4%**が「**地震**」と回答した。2番目に回答数が多かった「台風」は39.5%であり、「地震」に関する防災意識が圧倒的に高いことが明らかとなった。

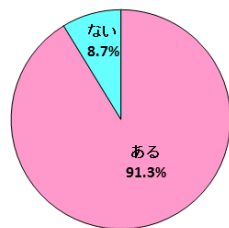
## 子どもと災害時の対応について話したことがありますか。

(n=696(うち小学生 341、中学生 355)、単一回答方式)

子どもと災害時の対応について話をしたことがあるか【小学生】



子どもと災害時の対応について話をしたことがあるか【中学生】

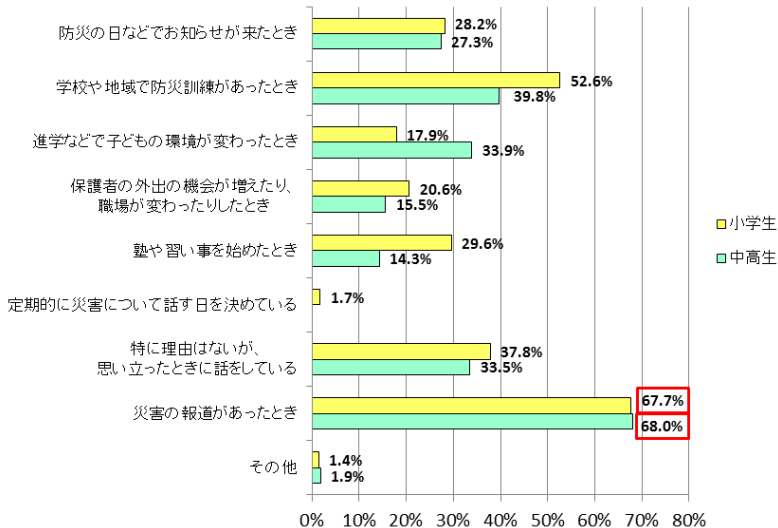


子どもと災害時の対応について話した経験を聞いたところ、**小学生の保護者の85.9%、中学生の保護者の91.3%**が、災害時の対応について子どもと話したことが「ある」と回答した。

## どのような機会に子どもと災害時の対応について話をしましたか。

(n=613(うち小学生 291、中学生 322)、総回答数 1503、複数回答方式(あてはまるものすべて))

どのような機会に子どもと災害時の対応について話をしましたか



災害時の対応について話したことがある保護者に、そのきっかけを聞いたところ、小学生・中学生の保護者ともに「**災害の報道があったとき**」が最も多く、どちらも約**68%**の保護者が回答した。

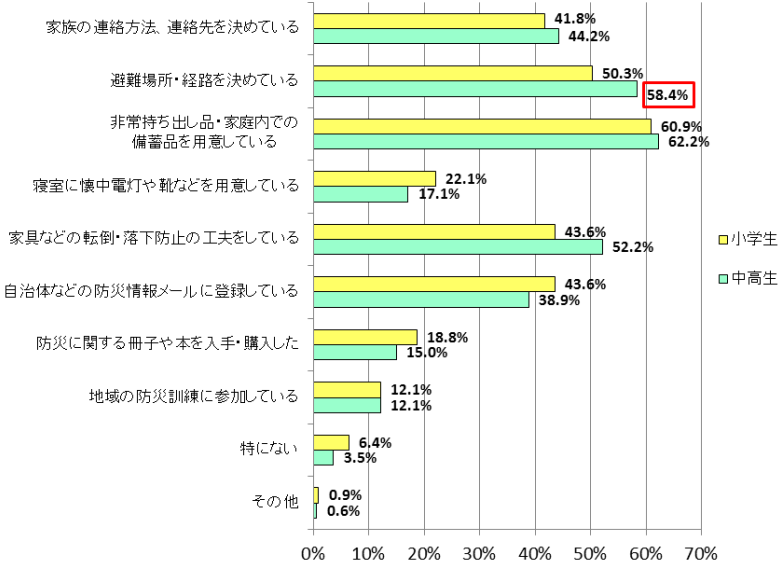
また、小学生の保護者の29.6%が「塾や習い事を始めたとき」、中学生の保護者の33.9%が「進学などで子どもの環境が変わったとき」と回答している。どちらも保護者の約3割となっており、**子どもの行動範囲が広がる時や環境が変わるとき**が、災害時について話すきっかけのひとつになっていることが明らかとなった。

一方、子どもと災害時の対応について話したことがない保護者にその理由を聞いたところ、「災害の対応について話すべきタイミングがわからない」「理由は特にない」等の理由が多く挙げられた。

## 災害時に備え、家庭で実践していることは何ですか。

(n=669(うち小学生 330、中学生 339)、総回答数 2024、複数回答方式(あてはまるものすべて))

災害時に備え、家庭で実践していること

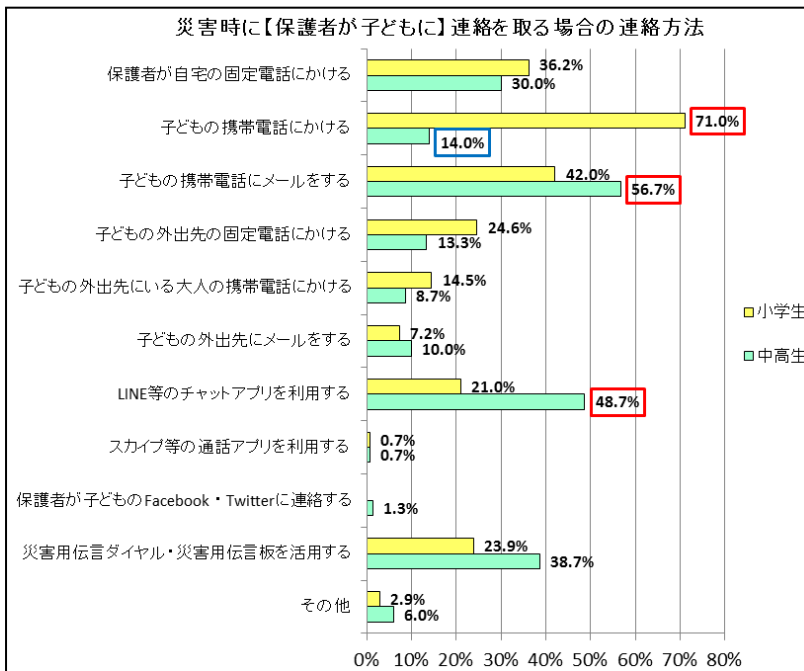


小学生・中学生ともに最も回答が多かったのは、「**非常持ち出し品・家庭内の備蓄品を用意している**」で**6割以上**の保護者が回答した。

小学生と中学生で差が開いたのは、「避難場所・経路を決めている」で8.1ポイントの差だった。中学生は、通学範囲や行動範囲が広がるため、災害時の避難場所等を決めている家庭が多いと考えられる。

## 災害時に【保護者が子どもに】連絡を取る際、どのような連絡方法を想定していますか。

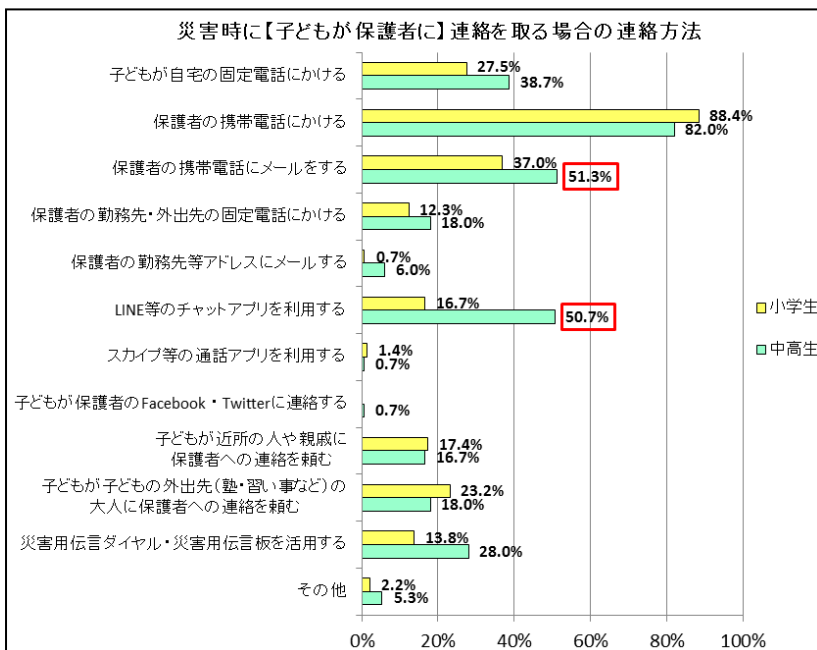
(n=228(うち小学生 138、中高生 150)、総回答数 679、複数回答方式(あてはまるものすべて))



「災害時の連絡方法、連絡先を決めている」と回答した保護者に、保護者から子どもへ連絡を取る時の方法を聞いたところ、**小学生の保護者の71.0%が「子どもの携帯電話にかける」と回答した。**中高生の保護者が多く回答したのは「**子どもの携帯電話にメールをする**」56.7%、次いで「**LINE等のチャットアプリを利用する**」48.7%だった。子どもの携帯電話にかける保護者は14.0%にとどまった。中高生の保護者は、**災害時に電話よりも、メールやLINE等を利用して、子どもと連絡をとる**保護者が多いことが明らかとなった。

## 災害時に【子どもが保護者に】連絡を取る際、どのような連絡方法を想定していますか。

n=228(うち小学生 138、中高生 150)、総回答数 806、複数回答方式(あてはまるものすべて))



同様に、子どもが保護者と連絡を取る時の方法を聞いたところ、小学生・中高生ともに「**保護者の携帯電話にかける**」が最も多く、**小学生の保護者の88.4%、中高生の保護者の82.0%**が回答した。また、中高生と小学生で差が大きかった項目は、「LINE等のチャットアプリを利用する」で、34ポイントの差があった。子どもからの連絡は、「**保護者の携帯電話へかける**」が最も多かったが、中高生ではやはりメールやLINE等のチャットアプリの利用も高いことが明らかとなった。

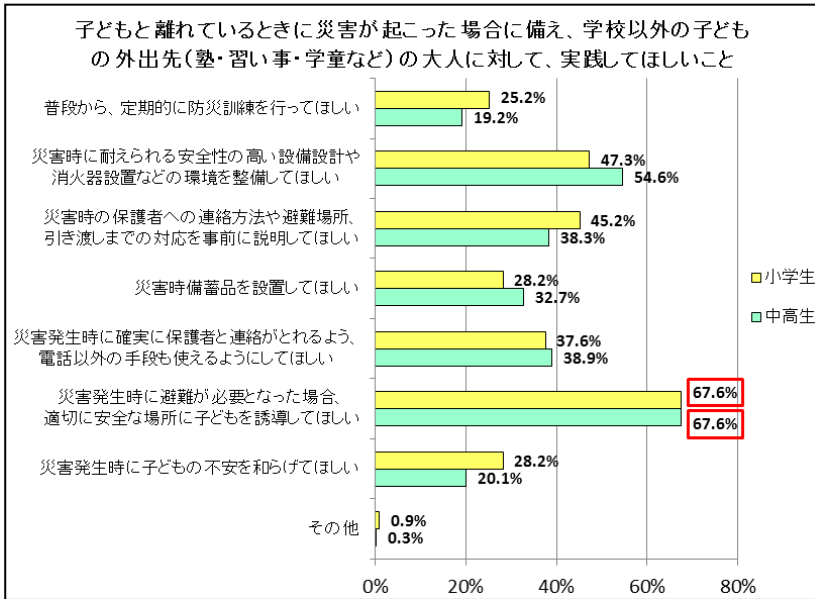
中高生では、【“保護者→子ども”は電話<メール・LINE】、【“子ども→保護者”は電話>メール・LINE】だった。

顕著に差が出た理由として、以下のことが推測される。

- ・大きな災害でなくても、保護者はメールやLINEでまずは気軽に子どもの状況を確認したい
- ・働いている保護者は、電話よりメールやLINEの方が職場から連絡がしやすい
- ・保護者からの連絡に対して、電話よりメールやLINEの方が子どもの返答が早いと保護者は思っている
- ・子どもでは災害の程度が判断しづらいため、災害の大小にかかわらず子どもからの連絡は電話と決めている
- ・特に理由はないが、保護者や周囲の大人が、「何かあれば保護者に電話をして」と普段から言っている

**子どもと離れているときに災害が起こった場合に備え、学校以外の子どもの外出先(塾・習い事・学童など)の大人に対し、どのようなことを実践してほしいですか。**

(n=669(うち小学生 330、中学生 339)、総回答数 1845、複数回答方式(最大3つまで))



塾や習い事、学童等子どもが学校外で過ごす場所の大人に、災害時に備えてどのようなことを実践してほしいかを聞いたところ、小学生・中学生ともに「災害発生時に避難が必要となった場合、適切に安全な場所に子どもを誘導してほしい」が最も多く、67.6%の保護者が回答した。

**防災について日頃思っていること、他の人にお勧めしたい備えなどがありましたら教えてください。**

(自由回答方式)

防災について日頃思っていること、他の人にお勧めしたい備えなどに関して、以下のような意見が寄せられた。

**<防災に対する思いや不安>**

- ・東日本大震災のときはなかなか電話が繋がらず、家族と連絡がとれず不安だったので、電話以外の連絡方法の確保や、パターン別の避難方法、避難場所をあらかじめ決めておくことが大事だと感じました。
- ・先日の大阪北部地震の際、LINEは繋がったので、必要ないと思っている親世代も少しはできるようにしておく、安心だと思います。
- ・今回のアンケートをきっかけに、災害に対する自分や家族の対処の仕方を、もう一度話し合おうと思った。
- ・実際災害がおきてみないとわからない、実際なんとかなると思ってしまう。
- ・メールは、利用が集中したり携帯の中継基地が損傷したりすると送受信が滞るので、あてにできない。携帯電話もつながらなくなる(いずれも東日本大震災時に経験済み)。人によるアナログの対応や、テレビラジオ等のPush型の通信手段が勝る。
- ・都内のため、災害で交通などがマヒした場合の家族の通勤・通学がかなり心配。

**<子どもの災害時対応に関して>**

- ・災害に応じた対応が子ども一人でなかなか取れないと思うので、周りの大人の助けを借りるなどコミュニケーションが取れるようになってほしい。
- ・子が一人で行動する時間も増え、行動範囲も広がったので、自分で判断して行動することが大切と伝えている。
- ・子どもなりに自分の身を自分で守ることをしっかり伝えておきたい。
- ・小学生以上はどれだけ自分で危険を判断して行動できるか、がとても大事になると思います。なるべく日頃の小さなことでも、自分で考えて決めさせるように、と心がけています。

**<災害時の備え>**

- ・日頃からの家族全員での、LINEやメールでの連絡。
- ・近所の方と、日頃から挨拶などコミュニケーションをとっておくことを心がけています。

- ・外出の時には飲み物、手軽な食料を持ち歩く。子どもには日ごろ帽子を被らせ頭を守るようにしている。
- ・子どもに GPS の機能がついている携帯を持たせ、いつでも居場所を確認する。
- ・冬は少しでも寒さから体を守れるよう、子どもにアルミブランケットを携帯させています。手頃にあります。
- ・非常持ち出し用品の中に、かさばらないトランプ等の玩具を入れておくと避難所等で子どもの気がまぎれるそうです。
- ・キャンプ道具一式を持っているので、簡単な炊事ができるようなキャンプ道具の一部を車に積んであります。

## 【栄光の災害時対策】

栄光では災害時に備え、以下の対策を行っています。

### ＜全教室への災害用備蓄品設置＞



栄光では、全教室に「災害用備蓄品」を設置しています。災害時に教室が安全だと判断された場合、生徒が保護者のお迎えを約 12 時間程度安心して待つことができる備品を、想定される通塾者分揃えています。防災ずきんやホイッスル、ラジオやアルミシート型毛布等に加え、特定アレルギー物質 27 品目不使用のアレルギーフリークッキーや氷砂糖、子どもでも使いやすい簡易トイレなど、生徒が使用することを考慮した内容になっています。

### ＜毎月の緊急避難場所・指定病院の伝達＞

栄光に通っている生徒に毎月配布している「教室スケジュール」には、災害時の緊急避難場所と指定病院を記載しています。毎月のスケジュールに記載することで、生徒や保護者の目に入ります。

### ＜災害による休講情報のメール配信＞

災害等で休講が決まった場合、塾生ポータルサイトに登録している生徒や保護者のメールアドレスに、休講メールを配信しています。メールでの配信により、いつ、どこでもタイムリーに休講情報を得ることができます。

## 会社概要

中学受験、高校受験対策の学習塾「栄光ゼミナール」や個別指導で目標達成へ導く学習塾「栄光の個別ビザビ」、高校生対象の大学受験対策塾「大学受験ナビオ」等、首都圏を中心に全国約 450 教室を展開しています。生徒の学ぶ意欲を引出し、自ら学ぶ姿勢を育てることで、中学受験・高校受験・大学受験の合格へ導き、生徒・保護者の期待に全力で応えていきます。

そのほか、科学実験専門教室やロボット・プログラミング教室等も運営しています。

本社： 東京都千代田区富士見二丁目 11 番 11 号

代表： 代表取締役社長 山本 博之

設立： 1980 年7月

### 本件に関する問い合わせは

Z会ホールディングス広報 大久保・渡辺

電話：03-5275-1685 Fax :03-5275-1679 Mob :070-4036-1980

メールアドレス：hiroko-okubo@zkai-hd.co.jp